蔵王嶽
広報
かじき
No.376
昭和61年2月号
発行 加治木町
編集 総務課
題字 東町長

懐炉

懐炉といえば、老人のものと思われていたのは昔の事。今や懐炉はスキーに行く若者や、スタイルを気にして薄着する娘さんたちの必需品。

こんなことになったのは、使い捨て懐炉が登場して以来のことです。

使い捨て懐炉の内容は鉄粉、水、塩、活性炭、保水剤などを混ぜたもので、これが空気中の酸素に触れると発熱する仕組みになっています。

寒さ厳しい二月は『省エネルギー月間』です。貴重なエネルギーを効率よく使う工夫をしましょう。

二月二十八日から春の全国火災予防運動も始まります。

火の用心に心がけましょう。

防火の誓い新たに（町消防出初式）

◈人口23,303人（＋15）男10,967人（＋10）女12,336人（＋5）世帯数 7,882（＋3）61.1.1現在（　）前月比

公民館の区域を再編成

＝15地区を18地区として地域づくり活動を充実＝

町民の自治意識や連帯感をはぐくみ、これらの要求を援助する公民館のあり方について検討を進めてきた町教育委員会では、社会教育委員・公民館運営審議会委員（栄義雄代表、委員20人）で調査・協議された「地区公民館区域の再編成及び公民館の効率的な運営について」の答申に基き、４月から地区公民館の区域を18地区に再編成し、住民の自主的な地域づくり活動をさらに充実するとともに、総ぐるみで推進してゆくことにしました。

加治木小学校の開校に伴い 地区公民館の区域を見直す

地区公民館は、いくつかの自治会を包括する組織として設けられ〝ふるさとづくり〟や社会教育活動などの拠点となっています。

現在の地区公民館の区域は、昭和四十一年四月に地理的・文化的な結びつきや、小学校区等を考慮して定められましたが、その後の社会情勢の変化、特に四月一日に予定している加治木小学校の開校に伴う小学校区の変更と合わせて、学校・家庭・地域社会の連携がよりいっそう深められるように再編成することにしました。

また、地区公民館の組織や運営についても、それぞれの地域の特性を生かしながら、住民自らの役割を分担しあって〝地域づくり活動〟が進められるよう努めることにしました。

町民の皆様の御理解をいただき地区公民館が、さらに〝地域づくり〟のよりどころとなることを期待したいと思います。

４月開校をまつ加治木小学校

小学校区をもとに 十八地区に編成替え

地区公民館の区域は、新設される加治木小学校区を含め、五つの小学校区をもとに現在の十五地区から「加治木町公民館組織図（下図）」のとおり十八地区に編成し直しました。

地区公民館の組織や運営の充実を図る

地区公民館は、それぞれ地域の特性に応じ「公民館運営委員会」を置き、実施機関としての総務部、研修部、青少年部、婦人部、体育部、防犯部などの「専門部」を充実させ、自治会の専門部と連携を密にしながら、住民が自らの役割を分担して〝地域づくり活動〟を展開する組織や運営が必要です。

なお、地区公民館長は、自治会長の互選によって選出することが望ましいと思います。

但し、地域によっては地域の特性を生かして適当な人を選ぶ方法もあります。

加治木町公民館組織図

（地区公民館）	（自治会）
城東第一	〔日木山黒川、日木山団地、吉原、東吉原団地、下新道、里ノ上、里ノ下〕
城東第二	〔天神、東諏訪、西諏訪、小陣〕
城南	〔新町、垂ノ口、江湖、上浜、中浜、下浜、今町、蒲生田(1)、蒲生田(2)、西町、端山、反土黒川〕
城西	〔柳田、於里、新富団地、田中、竹下〕
城北	〔西反土前、西反土後、萩原、城、口ノ町、内原田、札立、川原、蔵王団地、棚目〕
中野	〔中野、楠原、弓削、長谷〕
錦江第一	〔向江町、東塩入、中塩入、南塩入、西塩入上、西塩入中、西塩入下〕
錦江第二	〔江口団地、西江口団地、岩原東、岩原西〕
錦江第三	〔浜村、須崎、豊町〕
木田第一	〔高井田、春日団地、空港団地〕
木田第二	〔新中、西ノ原、楠園、中福良東、中福良後、弥勒、上木田〕
木田第三	〔小烏、赤坂、原ノ門、中央〕
永原	〔永原、丸岡、隈原上、隈原下、市野々、上嶽、下嶽、提水流、菖蒲谷上、菖蒲谷下、桑迫、曲田、桃木野、東ヒナバ、西ヒナバ〕
辺川	〔辺川下、辺川中、鶴原、市野〕
竜門東元	〔布越、井手向、高崎、岩穴口、徳永、小田倉、迫上、迫下、御狩山〕
竜門西元	〔麓、毛上、茶碗屋、伊部野〕
竜門西浦	〔石野、鞍掛、永山、下東木、上東木、赤谷、西浦西、地久里〕
竜門東浦	〔上川内、川内、市来原、新開、宮田ケ平〕

4月1日から 地区

校区公民館連絡協議会を設置

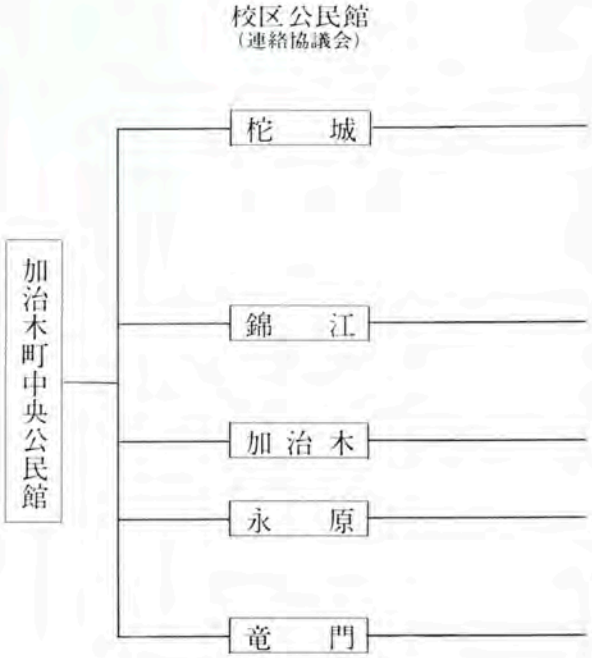
学校をはじめ、地域の機関、団体などと連携を図りながら〝地域づくり〟を進める組織として、各小学校区ごとに「校区公民館連絡協議会」を置くことにしました。

この組織は、地区公民館の連合体であって、校区内の意見調整や話し合い活動を行う組織とし、会長は地区公民館長の互選が望ましいと考えます。

組織の構成員を例示すると、地区公民館長、地区公民館役員、学校長、校区PTA会長、校区子ども会育成会長、校区老人会長、校区民生委員・児童委員などです。

なおこの協議会は、校区公民館を建設するまでの措置とします。

将来は、校区公民館を分館的な性格を備えた公民館とし、〝地域づくり〟活動とともに、多様化する学習社会に応えることにしています。



地区公民館区域の再編成にあたって

（社会教育委員長・地区再編特別委員長）　栄　義　雄さん

町教育委員会は、社会教育委員・公民館運営審議会委員に対し、昭和五十九年七月二十日「運営が簡易で、より効果の高められる望ましい地区公民館の区域はどうあればよいか」について諮問しました。

そこで、社会教育委員・公民館運営審議会委員は、特別委員会を設置して取り組みました。

特別委員会では、公民館のあり方と問題点を検討しながら、校区公民館制度をとっている福山町などの実態を視察したり、地区公民館別に各種役員の研修会を開いていただき、それぞれの地区の皆さんの「地区公民館区域の再編成」に対する意見も聴取しました。

その結果、長年の活動を通して地区の連帯感が密になっている現状を踏まえて、小学校区を基に再編成するように答申しました。

現在の十五地区公民館区域を、五つの小学校区と十八の地区に再編成します。

さらに、各校区ごとに「校区公民館連絡協議会」を設け、子供の健全育成を中心に学校・家庭・地域の三者の連携により、地域の閉鎖性をなくして町全体の地域づくり活動の発展を期すことにしました。

校区公民館連絡協議会では、その校区の地区公民館長を中心に、学校長・PTA会長・老人会長・青年団長・婦人部長・体育部長を構成メンバーとして校区の親睦・交流を図り、それぞれの地区公民館の活動がスムーズに運営できるように話し合っていただくようにします。（図参照）

将来は、中央公民館の傘下に、各校区に校区公民館（条例公民館）を設置していただき、自治会の指導、援助とともに学級・講座を開設するなど、住民の学習の場を身近かなものにしてもらいたい。

地域づくりは、時間を割き、努力しなければならないのです。

自治会の清掃作業を例にとってもわかるように、作業そのものは労働ですが、みんなと話し合って清掃する喜びがあるはずです。

美しくなった後を眺めて喜び合う、力を合わせてやりとげたことを喜ぶ、このみんなでの喜びこそ大切ではないかと思います。

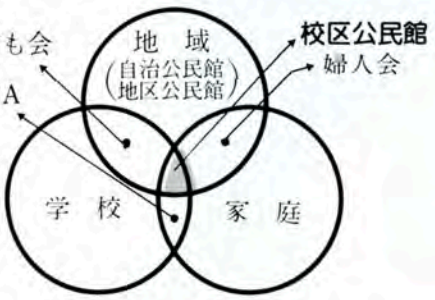
この雰囲気は、一回の会合ではできるものではないのです。

役員、住民が何回となく話し合い、親しむことによって生まれてくるものです。

一家庭の幸せ、平和を地域・町へ広げることに目を向けようではありませんか。

四月から再編成される地区の皆さんが、一日も早く新しい公民館区域になじんでいただき、住民総参加の地域づくりが進められるよう心から希望します。

〔校区公民館連絡協議会の役割〕



土地購入にも補助

公民館建設事業

町はこれまで、町民の皆さんが自治活動を進める拠点施設として設置される自治（地区）公民館建設事業のうち、建築費と土地購入費（六十年四月から）について、毎年度予算の範囲内で補助しています。

詳しくは、町教育委員会・社会教育課（電話六二―二一一一、内線四十三番）へお問い合わせください。

◎補助金の対象と補助金額

■建設（新築・改築および増築）に要した事業費および付帯工事費の三分の一以内

最高限度額　百三十万円

■土地購入費の三分の一以内

最高限度額　百万円

防火の誓い新たに

町消防出初式

新春を飾る恒例の町消防出初式が一月十一日、町消防団員百五十人と、川野保育所の幼年消防隊員二十七人が参加して役場グラウンドで開催されました。

出初式では、式典に先立ち国分自衛隊の音楽隊を先頭に、消防団員が蒲生田通りなどをパレードし「火の用心」を呼びかけました。

式典では、向江助役や来賓の観閲を受けた後、小型動力ポンプと自動車ポンプの操法や放水演習、幼年消防隊員によるきびきびとした規律訓練などが次々に行われ、参加者は防火の誓いを新たにしていました。

また、これまで長年にわたって消防活動に尽力されてきたかたがたを表彰し、その労をねぎらいました。表彰を受けられたかたがたは次のとおりです。

消防ポンプ操法

幼年消防隊員の規律訓練

▽県消防協会姶良伊佐支部長表彰

川原　輝夫（小山田分団　班長）
今村　芳男（西別府分団　団員）

▽町長表彰

■勤続章（三十五年）

小宮路静哉（辺川分団　分団長）
有川　恭雄（錦江分団　分団長）

■勤続章（三十年）

川床　利雄（西別府分団　班長）

■勤続章（二十五年）

大宮路五男（辺川分団副分団長）
郡山　貢（錦江分団　団員）
杉田　秀清（錦江分団　団員）
犬童　政武（中央分団　団員）

■勤続章（二十年）

市来原松義（小山田分団分団長）
田中　健二（小山田分団　部長）
松葉瀬義美（小山田分団　班長）
大山　一男（中央分団　団員）
西村　勝（西別府分団　団員）

■勤続章（十五年）

川原　輝夫（小山田分団　班長）
今村　芳男（西別府分団　団員）

■勤続章（十年）

中村　正紀（西別府分団副分団長）
桃木野　学（西別府分団　団員）
谷口　敏彦（中央分団　団員）
戎　孝（錦江分団　団員）
石原　国昭（錦江分団　団員）
桃木野一男（錦江分団　団員）
山元　司（小山田分団　団員）
神園　勇（辺川分団　団員）

■団員表彰

簗瀬　鉄憲（錦江分団　団員）
上猶　好廣（辺川分団　団員）
笹峯　雄二（小山田分団　団員）

■無火災表彰（出初式から一年間）

辺川分団（連続十五年間）
中野分団（連続　六年間）
西別府分団（連続　五年間）

■団体表彰　須崎自治会婦人部

■町長感謝状

向江　素（元辺川分団副分団長）
寺師　栄（元錦江分団　班長）
江口　昇（元錦江分団　団員）
塩屋　政秋（元錦江分団　団員）

▽消防団長表彰

山下　憲夫（中野分団　班長）
大串　敏之（錦江分団　団員）
中山　正行（西別府分団　団員）
日高　深（辺川分団　団員）
大園　廣（辺川分団　団員）
猪目　隆二（小山田分団　団員）

▽町消防後援会連合会長感謝状

上村　親（元中野分団　団員）
山下　善之（元中野分団　団員）
森田　正人（元中央分団　団員）

223人が はたち 歳の旅立ち

町成人式

新成人を励まし、お祝いする町成人式が一月十五日、福祉センターで開催され二百二十三人（男性百十一人、女性百十二人）が大人の仲間入りをしました。

式典では、スライドで「はたちの歩み」を振り返った後、川原隆志さんと猪目英男さん、白浜佳代子さん、猪目靖子さんが、信頼・友情・青春・奉仕の四つの燈を持って入場し、キャンドルを手に成人の誓いを立てました。

乙須教育長は「成人式は、親から離れ自ら正しく生き抜くことを誓う日です。一生の計は成人式にあり。何をしてもらえるかではなく、人のために何ができるかを考える人間になってください」と式辞を述べました。

成人の燈を囲んで

また、この式典の裏方として受付や会場整理を手伝った町青年団（大宮路和也会長）を代表し樗木弘さんが、自分の成人式の思い出や青年団活動の体験をまじえ、後輩の成人を祝福するとともに青年団への参加を呼びかけました。

この後、新成人を代表し、市来竜郎さんと大塚泰史さん、藤崎尚美さん、岩崎真紀代さんの四人が〝はたちの抱負〟を力強く発表し盛んな拍手を受けました。

アトラクションでは、本町在住の池端ミチ子さんが「初恋」や「カリスの娘たち」などのすばらしいはなむけの歌声を披露。また、コールのばらの美しいハーモニーに合わせて「手のひらを太陽に」と「四季の歌」を全員で合唱し、式典を終わりました。

また、この日新成人から町に贈られた桜の木は一月十九日、高岡公園に植樹されました。

春には私たちの目を楽しませてくれることでしょう。

今日も響く
本を読む子供の声

木田地区 札立地区 朝読み・夕読み事業

松永祐輔くんを囲んで（木田）

うっすらと明けゆく朝、木田地区と札立地区からさわやかな子供たちの放送が聞こえてきます。

「お早うございます。これから私たちの朝読み放送を始めます」

「今日読む人は○○さんと△△さんです」と……。

これは、町の「かごしまの子ども朝読み夕読み事業」実践活動重点モデル地区の指定を受け、五十九年八月一日から続けているもので、朝と夕方、子供たちの本を読む声が地域に響いています。

木田地区では一月十一日、西ノ原の松永祐輔くんと、松永美希さん、花牟礼麻紀さんの三人が「夕読み」を行いました。

錦江小学校一年生の松永祐輔くんは、昨年からの参加者。この日は教科書の「チックとタック」を雰囲気を思い浮かべながら、声の調子を変え、はっきりとした発音で放送していました。

松永美希さん（錦江小学校三年）は「朝読みの時は五時半ごろ起きて来ます。冬は寒いけど、みんながんばっているから私も続けます」と、元気に答えてくれました。

また、一月二十一日の札立地区の夕読みでは、阿部和美さん（柁城小学校三年）が、国語の教科書の中から「手ぶくろを買いに（新美南吉）」を朗読しました。

夕読みをする阿部和美さん（札立）

阿部和美さんは「図書館から本を借りてきて、家でも朝と夕方読んでいます。もうたくさん本を読んだよ」と話してくれました。

朝読み・夕読み事業は、テレビに流されてしまいがちな子供たちに、規則正しい生活習慣と読書習慣を身につけさせるため「声を出して読む」ことの意義と効用を見直し、取り組むことを趣旨として五十七年から推進されており、町ではこの事業をさらに全町に拡げてゆくことにしています。

「朝読み・夕読み」事業を実践して

錦江第三地区 公民館長　北薗文夫さん

「朝読み・夕読み」事業推進についての話を耳にしたのは、五十九年六月で「お田植え祭」に行く途中、岩崎貞光前館長が「町から大変な話を持ち込まれましてね」と、ちょっと戸惑った様子で話されました。

三役としては「別段断わる理由もないが、一応町の説明を聞こう」ということで、早速六月十一日の夜地区公民館で説明会を開催しました。町からは社会教育課長ほか二名と、加治木中学校長が、公民館がわから地区三役と育成正・副部長、各自治会長、小・中育成会長、小・中PTA会長さんなど約三十人が集まり「朝読み・夕読み」事業推進について、社会教育課長から趣旨説明を受けました。

北薗文夫さん

また、加治木中学校長から「今の中学生は、社会活動に参加したがらないのが現状だが、二十一世紀の中堅的人間として活躍しなければならない人たちです。無理やり押しつけてはいけない」などのアドバイスも受け、この事業を進めることについては賛否両論、いろいろ意見が続出し、結局父兄、小中学生全員が再度集まり協議することになりました。

六月十六日夜、父兄五十三人と子供七十七人が参集し、全体会を開いて協議の結果「子供たちには良いことであるから実行しよう」との結論に達しました。

早速、先進地の国分市・野口地区に見学に出かけ、夕読みの実態などをつぶさに見聞し、子供たちの手慣れたマイク操作や、スピーカーから流れるさわやかな夕読みの声に感動しました。

その後、実行委員会を結成し、五十九年八月一日から朗読放送を続けてきています。

地区民からは「朝読み・夕読みが始まり、日常生活にリズム感が出てきた」という声が聞かれ、また、沢崎豊二さん（六六）からは「子供たちの元気の良い朝読み・夕読みを聞いて感動、感激している。私の心ばかりの贈り物です」と、一昨年は鉛筆を、昨年は金一封をいただき、子供たちの励みになっています。

一方「子供たちが読むのは良いが、テーマソングの音量がやかましい」「赤ちゃんが泣き出す」「日曜日の朝ぐらいは静かに寝かして欲しい」といった苦情も舞い込んでいます。

「朝読み・夕読み」事業の実践にあたっては、親子のなみなみならぬご苦労・ご支援と、地区民の協力が得られてこそ推進できることを改めて知らされました。

モデル指定を受けて一年八か月の間、どしゃぶりの雨の中、台風で吹き飛ばされそうになった日、耳がちぎれそうな寒い日も休みなく続けてきたことで、すばらしい読書力をつけることや、異年齢間の切磋琢磨、規律や連帯感を深めるなど青少年の健全育成に多大の効果をもたらしたと信じます。

できることなら、引き続き継続して、さらに読書の輪を広げて欲しいものだと念願いたします。

はたちの抱負

町成人式（１月15日、福祉センター）の席上 新成人を代表して４人のかたがたが、“はたちの抱負”を発表されました。

紙面の都合により、一部省略して掲載します。

はなむけの歌声

自分自身の言動に責任をもって

市来竜郎さん

市来竜郎さん

本日、私もこのように晴れて成人式を迎えることができました。

しかし、今、改めて自分自身を見つめ直してみると、一人前の大人としての自信と誇りに満ちあふれている外見とは裏腹に、成人という言葉に対して気恥ずかしさを感じ、この時点で社会や物事に対して自分なりの意見を持ち合わせていないことを腹立たしく思ったりする、そんな自分に気付きました。

私は、高校卒業と同時に実社会へ出ました。

自分の業務が消化できず、いらだちと焦りを覚えた日もあり、時にはざ折感すら感じた日もありました。

しかし、仕事も人生同様、失敗の繰り返しであり、勉強の毎日だと思います。今年の御用始めのあいさつで、知事が声を大にして「てげてげでよかがと言わず、突貫、ダメもと精神」と、マンネリ打破を強調しました。やるだけやれば道は自ら開かれるということを言いたかったと思いますが、それは新成人の私共にも言えることだと思います。

実際、社会へ出ればつき合う仲間の年齢層が広くなります。十人十色とよく言われますが、人間関係だけは失敗の許されないものだと思います。

私は、仕事上、住民や民間会社の幹部のかたがた、市町村のかたがたと話をする機会が多いのですが、ちょっとした話の中でも相手の心を傷つけたり、自分で傷ついたりさまざまなことがあります。

自分で理性を失うようでは、あまりにも大人気ないと思います。相手を思いやり、周囲に対して少しでも気配りができ、聞く耳を持つことができれば人間同志のつき合いもうまくいくと確信しています。

二十年という歳月の中にはさまざまな出来事がありました。社会の温かい保護の中で育って来た私共も、本日、晴れて成人式を迎えることができ、一人の公民、社会の一員として独立した生活に踏み出すことになります。未熟な私を温かく見守り、育ててくれた両親、喜怒哀楽を共にしてくれた友、昨日まで出会った多くのかたがたのためにも、今日からは自分自身の言動に責任を持ち、誰からでも信頼されるような人間になるよう努力したいと思います。

また、微力ながら二十一世紀に向かって飛躍し、和の精神で一致協力し、技術立県・鹿児島新時代を創っていきたいものです。

人々の幸せのために身をささげたい

岩崎真紀代さん

岩崎真紀代さん

私は、看護学生として、現在二年近く学んできました。

そして、実習に出て患者さんとのふれ合いの中から、いろいろなことを感じまた、学んできたと思います。

一人一人の患者さんとの出会いは忘れられないものなのですが、その中でも特に忘れられない患者さんとの出会いがあります。それは、四週間の外科病棟実習時の患者さんです。

その患者さんは、七十六歳の男性でした。受け持った時の状態は絶食中で、輸液によって栄養分を取っている、というものでそんなにかんばしいものではありませんでした。

私が、あと残り二日だという実習の朝の申し送りの際、私の患者さんの状態報告だけがありませんでした。「何か変だな」と思って呼ばれるのを待っていたところ、看護婦さんがスーツと入院患者さんの名前が書いてある所から、私の患者さんのネームプレートを外すのです。そして、短かく〝死亡退院〟という申し送りがなされました。

私は、そこで大きなショックを受け、涙が止まりませんでした。看護婦さんは、このことを日常茶飯事だと受け止めている様でしたが、私にはその様には受け止められませんでした。

どうして、一人の人間の〝死〟を冷静に受け止めることができるでしょうか。人間の死の、生命の大切さを知り、そして初めて死という現実を見つめることができました。

私たち看護学生が、戴帽式の日に唱えるナイチンゲール誓詞は、〝我はここに集いたる人々の前に厳かに神に誓わん〟という文句で始まり、〝我は心より医師を助け我が手に託されたる人々の幸せのために身をささげん〟で終わります。

まさに、理想像だとは思いますが、少しでもこれに忠実に行動していきたいと思います。

悔いの残らない大学生活に

大塚泰史さん

私は、人生の転機ともいえる二十歳という年齢を、学生という立場で迎えることになりました。

そういった意味でも学生時代というのは、自分にとってとても貴重な時なのです。

その貴重な時を充実したものにしたい。そのため何かに打ち込みたい。そういった気持ちであるサークルを選びました。

それが鹿児島野外活動カウンセラー協会、通称キャンプカウンセラーという学生ボランティアサークルです。

このサークルは、その名のとおりキャンプを行うのですが、野外活動の普及を目的としており、小中学生を対象としたキャンプを主催して、子供たちにキャンプを経験してもらっています。

キャンプは、日ごろ生活している文明社会から離れた自然の中で年齢の異なる初対面の者同志で生活するのです。電気もガスもない所にテントを張り、カマドを作り、薪を集め火をおこし、飯盒や鍋を使って炊飯し、後片づけまで全て自分たちでしないといけません。

また、キャンプ中は主に班単位で行動するので自分勝手なことはできず、互いの意見を尊重し、助け合うことが必要です。

大塚泰史さん

わずか四～五日間ではありますがこのキャンプを通して子供たちは、自主性を身につけ、日ごろ忘れがちな自然のすばらしさ、厳しさというものを敏感に感じとってくれます。

火を使う炊飯活動などを通して電気もガスもなかったころの人々の苦労と、現在の生活の豊かさ、また、毎日食事の支度をする親の大変さを知ります。

班で行動することで協調性が養われます。

このようにキャンプは、子供たちに学校では教わることのない多くの事を教えてくれます。

わずか四～五日ですが、キャンプを主催するのもなかなか大変なことです。

企画には何か月もかかり、スタッフ、対象学年、募集人員、キャンプ地、泊数、プログラム、経費などが決められます。

企画が済んだら募集です。各学校に募集要項を配ったり、テレビ、ラジオ、新聞などの報道機関を通じて募集するのです。

この主催キャンプ以外の活動として、夏休み期間中に県立青少年研修センター、市立少年自然の家などの教育施設のキャンプ場においてボランティアとして活動しています。

私はまだ学生です。年齢的には成人を迎えましたが、本当に成人として「一人前の人」として社会に出るのは二年後となります。

現在、四年間の大学生活の半分の二年が過ぎました。過ぎ去った二年間を振り返り、残りの二年間を無駄のないよう、悔いの残らないように過ごしていきたいと思います。

一生学者であり続けたい

藤崎尚美さん

友だちと机を並べ、教壇に立つ先生を仰ぎ学んできた自分がこの日からは一成人として社会へ巣立つことになりました。

私が、これからの道として選んだのは「小学校の教師」という、人と人とが真っ向からぶつかり合う、ごまかしのきかない世界です。高校を卒業する時には、とにかく先生になりたいと思い、それを支えたものは「子供が好き」という単純な、それでも強く熱い想いからでした。

藤崎尚美さん

子供と共に触れ、共に感じ、そしてまた共に考え、共に学びたいという私の理想は今でも変わりません。ただ漠然としていたものが形をなしてきたというか、核心に近づいてきた過程というものが短大での二年間だったような気がします。サークル活動に熱中し、教育実習に涙を流し、このようにして一つ一つたぐり寄せ、自分の理想をさらに確かなものにしていくためには、長い時間と豊富な経験が必要だと思うのです。

二年という短大生活では無理なのではないか、本当に自分のような者が教壇に立っても良いのだろうか、果たして子供たちを教え導くことができるだろうか、後二年、いやせめて一年あったらと、幾度思ったか分かりません。四年制大学との大きな時間のギャップは、ただ単に手をこまねいていても埋まるものではないと思うのです。

知識の少なければ少ないなりにあらゆる寸暇を生かし勉めるべきと思うのです。今後社会の一員となり、先輩方とのふれ合いの中に人生の体験を糧として学んでゆかねばと思います。

人の一生は学びゆく過程です。まだまだ、学び終えて社会に出てゆくのではありません。私たちは今、これまでの自分を振り返り、さらに大きく飛躍していくための一つの大きな節目に立っているのではないでしょうか。

新成人の皆さん、たとえ立ち止まっても、どんなにゆっくりとした足どりでも良いではありませんか。ただ、自分の行く道をしっかりと見つめられるよう、そして、あらゆる面で私たちを支え、力となってくれる人のいることを考え感謝の気持ちを忘れることなく、新たな出逢いを求め、大きく目を見開いて生きたいものです。

一生貪欲な学者であり続けることこそ、己を自覚し、実り多き人生を形づくるのではないでしょうか。

「はたちの献血」にご協力を…
一月十三日～三月十三日

校章と校歌が決まる

4月開校の加治木小学校

四月に開校する加治木小学校の校章と校歌が一月二十日決まりました。

これは教育委員会が、未来に躍進する加治木小学校にふさわしい校章と校歌の募集を行い、その応募作品百七点（校章七十点、校歌三十七点）の中から選考したもので、校歌には山梨県からも作品が寄せられました。

入賞者と作品は次のとおりです。

〈校章〉 山口俊秀作

■町木「樟」の若葉の中で、はぐくまれた小鳥（小）が、今まさに飛翔しようとする姿

■葉二枚（錦江・柁城から加治木小へ）は、「友愛」と末広がりの発展を願う

■背景は、蔵王岳や桜島、あるいは滝の水しぶき・波しぶき、砂浜など郷土の自然を連想させる

■直線（文字）は、力強さを示すたくましい「根性」のある子に育てたい願い

〈校歌〉

作詞　乙須　律子
作曲　武田恵喜秀

一、蔵王の緑　日に映えて
　希望にあける　木田の里
　みんなやさしく　助けあい
　心も広く　あたたかく
　友愛の花　加治木小
二、竜門の滝　音　高く
　歴史もゆかし　ふるさとに
　元気いっぱい　学びあい
　個性の花を　咲かせます
　若きみどりの　加治木小
三、綱掛川の　水清く
　つどい流れて　錦江湾
　天に火を噴く　桜島
　理想に燃えて　意気高く
　ああ根性の　加治木小

〈校歌の部〉
入選　乙須律子
佳作　釜付和江
佳作　内与詩守

〈校章の部〉
入選　山口俊秀
佳作　税所　勇

"もぐら打ち"を復活

隈原・丸岡・提水流子ども会

西別府の隈原・丸岡・提水流子ども会で一月四日、五穀豊穣を祈る"もぐら打ち"が、およそ三十年ぶりに行われました。

これは、昭和三十年代にこの地域で旧正月に行われていた行事を"子供たちに伝えよう"と地区民の協力で復活し、帰省者のいる一月四日に実施したものです。

この日は、先端にワラを縄で巻いた長さ三メートルあまりの竹ざおを手に、子供たち二十人が地区内の約六十件を回り、家々の庭先で丸くなって「良か野菜が出来っごっ」「じいちゃん、ばあちゃん元気でな」などとはやしながら、竹ざおで地面をたたいて五穀豊穣と家内安全を祈りました。

威勢よくもぐら打ち

青少年の豊かな心を育てよう ㊱

青少年教育

鹿児島・加治木の流れ（その16）『現代に生きづく郷中教育（学舎）』

青雲舎・有為舎とならび、明治から昭和中期に至る加治木の青少年教育の一翼を担っていた「郁文館」にふれ、今後の智・徳・体の一体化された育成例を求めてみましょう。

郁文館（塩入の観音寺墓地の東）

明治二十三年七月二十五日、小鳥小学校の訓導で谷山初七郎氏は、時勢の趨向を洞察、人材養成の必要性を痛感。放課後、上級生に漢籍を講じました。

共鳴した有志たちにより学舎が新築され、夜間は上級生の指導で下級生の復習の指導にあたりました。

また、訓導を慕って宮崎県や反土方面より入館者も多く、須崎地区に「水哉館」の支部を設け、館生は四十有余名をかぞえました。

谷山初七郎氏が東京の第一高等学校へ転任後、日高彦市氏、入部亀治氏が歴代館長を務め、「館」の基礎が固まりました。

その後、指導者が校務多忙で中学校の生徒及び塩入、岩原の区域に限定しました。

昭和六年ごろは館生二十四人で、毎週土曜日に自習、弁論、胆力養成に努め、青雲舎との討論、吟詠、野球等の交流があり、終戦後まで継続しました。

現代においては、ボーイスカウトについて乃木大将が、ベーデン・パウエル卿に会見（訪英中）した折「かかる良い制度をいかにして創始されましたか」と問うと「貴国の薩摩における健児の社の制度を研究し、その美点をとり入れて組織したものである」との返事でした。

郷中教育との類似点は、世代別の訓練、異年齢間の交流、個別の学習、運動的野外教育、小集団の組織参加、誠実・忠誠・質素・有情・礼節・勇気などがあげられます。

地域子ども会活動においても同様、郷中教育の長所をとり入れ、仲間づくりや、家庭とのつながり、地域教育の向上、環境の整備などに指導者の今後の御努力を願いつつ筆を置きます。

社会教育課の山口先生に執筆いただきましたこのシリーズは今回で終了します。

長い間ご愛読下さいましてありがとうございました。

盛大に創立二十周年式典を開催

加治木町商工会青年部

町商工会青年部（上荒磯巧部長、会員六十七人）の創立二十周年式典が一月二十九日、青年部員やOBなど約百五十人が集まり、町商工会館で盛大に開催されました。

式典では、ビデオで青年部の歩みを振り返った後「商工業に従事する青年の使命を認識し、情熱をもって、地域社会発展の先駆的実践集団としての責任を全うする」という青年部信条の宣言や、西倉厚さんをはじめ歴代青年部役員の表彰、二十周年記念事業として小学六年生から募集した「加治木町の未来」と題する作文の入賞者の表彰などが行われました。

また、午後からは社会教育家・田中真澄さんの「積極的に生きる」と題する記念講演も行われ、集まった約二百五十人の観衆は熱心に聞き入っていました。

作文の特選者は次のとおりです。

▽町長賞　藤野　照子（竜門）
▽町商工会長賞　脇　三夏（竜門）
▽町議会議長賞　今村真理子（錦江）
▽町教育委員会賞　堀切　亮（柁城）

作文の入賞者を表彰

田の神様が引っ越し

小山田・徳　永

小山田・徳永にある田の神様の引っ越しが、十二月二十六日行われました。

これは、この地区で進めている農村基盤総合整備事業の区域内に像があったため近くの大井上神社下へ移転したものです。

ゆっくりとお引っ越し

共同で牛の削蹄作業

上西浦和牛振興会

小山田の上西浦和牛振興会（市野親義会長、会員十四人）では、今年も牛の削蹄作業を一月十九日共同で実施しました。

牛の削蹄は、衛生面や牛の発育のために、毎年一回は必要な作業で、この日は三班に分かれ会員の家を回り、一頭の牛に三人がかりで三十六頭のつめを削り、ヤスリ整えました。

上西浦和牛振興会は、肉牛経営に取り組む仲間のグループで、これまでも資金を持ち寄り「モアイ」で肉用牛の増頭を図るなどユニークな活動を続けてきています。

振興会では、この削蹄作業のほか、会員の持ち回りで年六回定例会も開催しており、相互研修と仲間づくりに努めています。

牛の削蹄作業

お母さんしっかり

お茶の水女子大学教授
附属幼稚園園長
外山　滋比古

今はなにごともインスタントが喜ばれます。手間ひまかけてはいられない、というので食事などでもファースト・フードが大流行です。

そのせいでしょうか。子供の育て方もだんだんせっかちになってきました。さっさと大きくなってくれないか、早く手が離れるようにならないか、とひそかに願っているお母さんが少なくありません。

ローマは一日にしてならず、といいます。りっぱな子供がインスタントに育ったりするわけがありません。このごろはあまり聞かれなくなりましたが〝クントウ〟という言葉があります。薫陶と書きます。

すぐれた人の感化によってほかの人を知らず知らずのうちにりっぱな人間に育てるのが薫陶です。心の深いところへ影響を与える本当の教育のことです。

しかし、これはたとえの意味で、もともとは焼き物を作る時の言葉でした。

陶器を作るのに、ただの土をこねて成型するのではなく、香をたいてその香りを土に染み込ませる。こうした土をこねてこしらえたものを焼き上げるとすばらしい陶器ができる。これが薫陶のもとの意味でした。

教育がまさにその通りだというので、この言葉を借りてきて目に見えない、すぐれた感化のことを薫陶とよぶようになったというわけです。

子供の育つ家庭にも、親の愛情というお香の香りが立ちこめていなくてはなりません。これが家風です。この空気が汚染されていたりしては、りっぱな子供は育ちません。

清浄な家風で子供の心を育て上げていくのは、まさに薫陶です。このごろのせっかちなお母さんにはまだるっこいのでしょう。即効のあることをしたがりますが、これでは子供にペンキを塗るようなものです。

ペンキは一日で色がつきますけれども、すぐはげてしまいます。空気の教育をしましょう。

ペンキ教育

94チームが健脚競う

第19回町内一周駅伝大会

史上最高

第十九回町内一周駅伝大会が一月二十六日行われ、大会史上最高の九十四チームが七区間に健脚を競い合いました。

大会には、第一回から連続出場の大脇武二さん（札立）や、指宿菜の花マラソン（一月十二日開催）で四十二・一九五キロを完走した大浜政徳さん（弥勒・六歳）も出場し、沿道の盛んな声援を背に軽快な走りを披露しました。

結果は次のとおりです。

【団体成績】

〔一般男子の部〕

優勝　消防署A　1時間9分23秒

二位　町役場A　1時間12分30秒

三位　加治木走友会A　1時間14分18秒

〔一般女子の部〕

優勝　姶城ママさんレー　1時間4分38秒

二位　川野同好会　1時間8分26秒

三位　南九州病院　1時間9分40秒

〔高校生男子の部〕

優勝　加治木工業陸上部A　1時間4分28秒

二位　加治木高校陸上部　1時間5分40秒

三位　加治木工業陸上部B　1時間11分55秒

〔中学生男子の部〕

優勝　加治木中陸上部A　1時間10分38秒

二位　加治木中陸上部B　1時間14分38秒

三位　加治木中野球部A　1時間16分58秒

〔高校生女子の部〕

優勝　加治木高校水泳部　57分58秒

〔中学生女子の部〕

優勝　加治木中陸上A　55分40秒

二位　加治木中テニスA　56分15秒

三位　加治木中陸上B　58分3秒

〔小学生男子の部〕

優勝　錦江野球スポーツ少年団A　52分25秒

二位　錦江野球スポーツ少年団B　54分5秒

三位　姶城ミニバスケットボール少年団　54分26秒

〔小学生女子の部〕

優勝　錦江バレースポーツ少年団A　55分54秒

二位　錦江バレースポーツ少年団E　59分42秒

三位　錦江バレースポーツ少年団B　59分59秒

〔オープン参加の部〕

優勝　垂水市陸協　1時間9分25秒

二位　九電鹿児島A　1時間10分22秒

三位　隼人走友会A　1時間11分27秒

【区間賞】

〔一般男子の部〕一区　原口正則▽二区　笹峯勉▽三区　小原爭時▽四区　久木田浩徳▽五区　外山広幸▽六区　岩元啓吾▽七区　有馬久光〔一般女子の部〕一区　神宮龍子▽二区　蓬原久美子▽三区　福元由比子▽四区　遠山喜代子▽五区　小浜由紀子▽六区　岩澤かすみ▽七区　原口みどり〔高校生男子の部〕一区　岩崎勝▽二区　山元金万蔵▽三区　永森憲治▽四区　福丸輝人▽五区　白瀬真一▽六区　笹峯毅▽七区　林耕一〔中学生男子の部〕一区　井上貴光▽二区　宮原一夫▽三区　池田重文▽四区　宮原健一郎▽五区　渋谷強▽六区　楠元淳一郎▽七区　中村伸一郎〔中学・高校生女子の部〕一区　加藤瑞恵▽二区　四元美紀▽三区　閏祥子▽四区　田中睦美▽五区　渡辺由香▽六区　西村勝代▽七区　浜田かおり〔小学生男子の部〕一区　鳥丸一洋▽二区　小野広幸▽三区　松田義継▽四区　畦地兼司▽五区　宮脇一郎▽六区　横手俊一▽七区　中西寛〔小学生女子の部〕一区　向江真代▽二区　猪俣裕美▽三区　今村真理子▽四区　早崎順子▽五区　城村瑞穂▽六区　山上智恵▽七区　中畠聡子

【特別表彰】

猪目初男さん（五三）加治木走友会

たのむぞ……がんばって……

歴史の旅 8

獺貫切貫を訪ねて（その一）

上木田・小脇の東方、獺貫滝の所に切貫がありますが、これが忘れてはならない木田水田の源、用水路の隊道です。

今から三二五年前、当時の木田の水田は現在と違って、想像もできない程の荒地で、湯の谷川、髢滝および湧水のわずかな水量で稲作を営んでいました。

なかんずく、新中・弥勒・向江新田方面は稲作不可能の地でした。正保三年二月十日付の加治木あての回文（公文書）によると、笹種（種まき）時分より仕付（田植え）草取り検者巡回し、植付後十日目ごろより一番草取りから六番草取りまで、七日ごとに草取りなし、女童（子供）まで作業するよう命じた文書もあります。

稲作においては、島津藩は強力な指導と、過酷な労働を強いており、一度干ばつになると、苗は枯れ、農民の生活に支障をきたしました。

救民の志ある隅州・加治木の人、池田助右門が、滝の東側の高倉山に登り、西の方を相見て高下を量り、得るところ有り。有志の賛同を得、蒲水（用水）の利益をもって、身を屠し、私財を投げうち切貫の事業を思いたつ。

加治木島津初代忠朗公に志を願い出、これを許される。時に万治二年八月二十七日なり。

暑い中、人夫を募り、役を起こし百斧ひとしく下ったのです。

即ち、高らかに斧の音が堅い岩盤にこだました。しかし、工事の初めは住民および人夫も共鳴し協力せるも、月日のたつのと時間がかかるにより、また、あまりの堅さに掘削が遅遅として進まず、工費も底をつき、ぼうぼうの声があがり、また、議論百出す。一人減りして人夫も減っていきました。

池田翁は、毎夜滝つぼに入り水ごりをなし神仏に成功を祈りました。

「気違助」「絶対に切貫はできない」と悪口、陰口、ののしられながら、昼夜わかたず最後は一人で全身にらっきょうのような汗を流し、石片にてひざから、手足から血が吹き出し、これにもひるまず、今日また黙々とのみの音絶えず……。

（上木田　吉村次男）

獺貫切貫の取水口跡

団体優勝は木田第一老人クラブ

第七回　老人はまなげ大会

郷土に残る遊びを伝承しようと第七回老人はまなげ大会が一月十四日、役場グラウンドで行われ、手作りのボットを手に約五十人が参加して熱戦を展開しました。

大会では、民生委員の山元重志さんが「明治・大正青年の心意気を発揮します」と、力強く選手宣誓を行い、さっそく五人づつに分かれてハマを打ち合う団体戦や、ハマが飛んだ距離を競う個人戦（セコ打ち）に興じていました。

結果は次のとおりです。

▽団体戦…**優勝**木田第一老人クラブ②竜門長寿会③日木山長寿会・岩原長寿会

▽個人戦…**優勝**垣内光夫、**二位**小原親志、**三位**西武夫

ソラ、行け…

駅伝大会にトロフィーを寄贈

九州電力加治木営業所

第十九回町内一周駅伝大会を目前にした一月二十日、九州電力・加治木営業所から九つのトロフィーが町に贈られました。

これは「町のスポーツ振興のため、町内一周駅伝大会に活用してください」と贈られたもので、加治木営業所の今森實所長と職員二人が町長室を訪れ、向江助役にトロフィーを手渡しました。

町内一周駅伝大会には、九州電力からも毎年選手が出場されており、今年も四チームが参加して健脚を披露しました。

贈られたトロフィーは、一月二十六日に開催された第十九回町内一周駅伝大会の表彰式で各部門の団体優勝チームに贈られました。

トロフィーを贈る今森實所長

薬草　知られざる効き目　㉙

ヤマノイモ

普通山野に自生する多年生のつる植物で、地上部は一年生。サトイモに対して山地にあるからヤマノイモという。

ヤマノイモのあるところには、これに似たオニドコロがある。これは葉がハート型で互生するが、ヤマノイモは対生する。

ヤマノイモは、昔から食用に薬用に重宝されてきた。

滋養強壮…食用として食べてもよいが、薄く切り乾燥したものをせんじて飲んだり、粉末にして食べてもよい。

せき止めに…せきこむような激しいせきをするとき、おろして砂糖を入れ、熱湯を注いで、熱いうちに飲むとよろしい。

健胃整腸に…とろろ汁にして食べると消化を助け、下痢を止める作用があるそうで、乾燥した根をせんじて飲んでもよい、とか。

生薬名は山薬といい、根のうす皮を除き、板状に切って乾燥する。これを二〇〇グラムほどしょうちゅう一升に入れる。三月ほどで出来上がるが、これが山薬酒である。グラニュー糖を入れ、就寝前杯二～三杯ほど飲むと滋養強壮の効がある、といわれます。

晩秋、葉腋にムカゴが着くが、これは根よりも効くようで、おいしいので食べ過ぎるとのぼせます。

ムカゴ取りは、大き目の洋傘を開き逆さにして、ヤマノイモのつるを棒でたたくと、洋傘に集中落下、全く取りこぼしがありません。

ムカゴは煮たり焼いたりして、お茶うけ、ご飯のおかずに、酒のさかなには最高。いささかお腹がふくれガスが出ますが、その香気さわやかなることまた格別……。

鵙高根

自然薯を堀る音低く　虚子

（筆者・県民の森　上萩大治）

▽無断転載は、ご遠慮ください。

竜門の会

冬麗や閃きて翔つ鳥の群　井之上透山

山裾の村は日を溜め枇杷咲けり　加藤　白柳

木箱ごと香りて届く林檎の荷　横山　江南

左義長の天を焦せり野の社　佐々木かすみ

再婚の宴短かし花菜漬　川崎　黒兎

初鏡すこし紅足し割烹着　古江　重美

石蕗咲いて潮騒近き宮柱　鶴田　耕

海苔簀に鴨みじろがず雲低く　柳田　稔

浮島の鴨の飛沫や四温晴れ　川上　節子

雪折れの水仙壺に溢れしむ　三浦　ゆう

梵鐘を聞く厨辺に着ぶくれて　竹山　洋子

枦紅葉して渓声のかすかなり　内田美津代

月天心無縁のごとく年暮るる　高木　正男

小寒や朝読みの声透き通る　恒吉　斗南

初雪や心たかぶる今朝の庭　上野　光

心配ごと相談

毎週木曜日、午前中
福祉センターで……

お知らせ

'86テクノポリス
科学技術展を開催

先端技術に対する理解を深め特に、青少年の科学技術に対する理解と啓発を図るため、次のとおり「'86テクノポリス科学技術展」が開催されます。

入場料は無料です。

▽会　期　三月二十一日(金)～二十三日(日)
▽開催時間　午前十時～午後五時
▽会　場　国分市立総合体育館

NHK学園　春の受講生を募集

NHK学園では、生涯学習講座の春の受講生を募集しています。

▽生涯学習講座
教養と趣味を深めるための通信講座で、二十二講座があります。

古典、漢詩、文章、美しい日本語、国語、英語、数学、簿記、母と子の書き方、母と子のリズムあそび、ファミリー写真、ビデオカメラ、書道、硬筆、絵画、囲碁、園芸、俳句、短歌、川柳、小論文・作文セミナー、リーダー養成塾
俳句友の会、短歌友の会

▽申し込み受付
二月十五日～四月十五日

☆詳しい案内書をご希望の方は、〒一八六　東京都国立市富士見台二―三六NHK学園八E十一係に、講座名、あなたの郵便番号、住所、氏名、電話番号をハガキに記入して請求ください。案内書は無料です。

働きながら学ぶ
鹿児島西高通信制課程

■入学資格
イ　中学校もしくはそれに準ずる学校を卒業した人
ロ、高等学校退学者
ハ　高等学校卒業者

■学　科
イ普通科
ロ自由コース(一部科目の学習)

■入学許可
書類選考による

■特　典
イ教科書、学習書の無償配布
ロ年間の学費　約六千五百円

■募集期間
三月二十二日～四月十三日

■問い合わせ先
鹿児島西高通信制入学係
☎〇九九二―二九―三七四四

うぶ声

出生児　保護者
西　奈保子　幸一　自治会
堀之内　愛　元　田中
西　正吾　正利　中央
市来　嘉邦　敬　天神
小鳥
中原　百恵　武志　豊町
神宮あけみ　六男　須崎
大山沙耶香　保典　垂ノ口
山下　美緒　豊　今町
竹之内啓太　和仁　空港団地
森山　郁美　幸男　吉原
福元　翔　規夫　西諏訪
川添　綾　隆志　中福良後
池江佳奈子　敏彰　下浜
山下　盛稔　盛玄　赤坂
弓場　明香　勉　西江口団地
弓場　香純　勉　西江口団地
竹中　佐織　貢　下新道
野間　歩　義信　端山

▽一月二十日までに住民票に記載された分を掲載いたしました。

ご寄付

香典返しのかわりにご寄付をいただきました。厚くお礼申しあげますとともに故人のごめい福をお祈りいたします。(　)内は故人。

＝町社会福祉協議会へ＝
三万円　川原　石澤昭芳　(母隆子七六)
二万円　東諏訪　松元忠志　(父基彦七九)
二万円　桃木野　隈原マサ　(夫甚兵衛八五)
二万円　岩原西　東　豊子　(夫哲二　六四)
二万円　西反土前　崎山シヅ子　(夫静七〇)
五万円　中福良後　岩屋チエ子　(夫繁七六)
十万円　札　立　川元克巳　(父親恵九五)
三万円　柳　田　本田　一　(母澄江七八)
二万円　田　中　堂森正實　(母サト八四)
十万円　下　浜　寺師秀孝　(母タツ六九)
三万円　西反土前　萩原　博　(母テル八三)
五万円　天　神　田中豊真　(母千代七二)
五万円　石　野　藤野春子　(夫勇吉七八)
三万円　吉　原　林　和子　(夫力夫六五)
二万円　西反土前　本中野アツミ　(父　與二　八八)
三万円　丸　岡　隈原重義　(長男初美三七)
二万円　端　山　有迫照子　(夫喜久男五六)
一万円　蔵王団地　南芳彦(母カメツイ八二)
三万円　中福良東　村崎あきえ(夫栄助八二)
二万円　岩原西　中村一清　(父　清　八一)
五万円　隈原上　榎谷アキエ(夫己佐雄卸)
三万円　永　原　福森勝美　(妻スミ子六三)
三万円　萩　原　市来政美　(妻ミネ六五)
三万円　南塩入　廻　綾子　(母　大津ヒキヲ　九)

＝町育英奨学資金へ＝
二万円　天　神　田中豊真　(母千代七二)
三万円　中福良後　岩屋チエ子　(夫繁七六)
一万円　中福良東　村崎あきえ(夫栄助八二)

＝町老人クラブ連合会へ＝
三万円　田　中　堂森正實　(母サト八四)
一万円　石　野　藤野春子　(夫勇吉七八)

＝国民健康保険特別会計へ＝
五万円　岩原西　東　豊子(夫哲二　六四)

▽一月二十日までのご寄付を掲載いたしました。(年齢は満年齢)

住みよい町づくりはまず納税から
今月は「国民健康保険税・第六期」の納期月です